



発行・カトリック水巻教会

編集・広報委員会

遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3

〒807-0021

TEL 093 (201) 0680 FAX (201) 7354

第293号

読書をして見ませんか 広報・岩本

あなたは最近本を読みましたか。私は今年の春に出版された、森司教著「これからの教会のありようを考える」を最近読みましたので紹介します。

私たちは教会のありようについて、いろいろ話をしますが、信徒が多様な考え方を持てるのもカトリック教会の特徴でもあり良いところと私は考えています。

今回紹介するこの本で、今の社会に生きる私たちの考え方の指針を森司教は示しておられます。9月23日の福岡教区信徒協の研修会で森司教が講演された内容もこの本に書いてあります。

「群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた」(マタイ9・36)と記されているとおり、キリストは、天の父の優しさに突き動かされて、苛酷な日々の生活の中で重荷と労苦を背負って、希望を見いだせないままに、もがき苦しむ人のもとに寄り添っていく。

そんなキリストの全身からあふれ出てくる優しさに魅了され、そのあたたかさに触れ包まれて、生きる希望と喜びを見いだした人びとの集まりが誕生する。それが、「エクレシア(教会)」である。またそこから、おのずと、その喜びを周りの人々に伝えていこうとする

ムーブメントが生まれる。それが、福音宣教である。

キリストの原点から出発した教会が、産業革命やフランス革命を乗り越えた近代社会に対応できなかった歴史を振り返りながら、第二バチカン公会議に至った歴史を振り返ります。そして現在の社会の中で、キリスト教徒としてどのようにするべきかを述べています。

キリストは神であるにもかかわらず、神であることにこだわらず、人となって、この世界の現実には自らをおき、その生涯をとおして、人びとの両親に語りかけ訴えかけた方である。実に、キリストの中に、どう行動するかの基本規範があり、光がある。そうしたキリストを仰ぎながら、人々の営みに加わっていく、そこに現代のカトリック者に期待される役割がある、とわたしは確信するものである。

今の教会は教義や掟で信仰を語るのではなく、聖職者だけでなく全てのキリスト者が現代社会の中にキリストの光を示すことが福音宣教であると森司教は述べられています。

老宣教師の忘備録	2・3面
教会学校のページ	3面
典礼委員会報告	4面
子ども達のページ	5面
黙想の家で祈り語りあう	6・7面
ペルーから・(写真は8面)	7面
おしらせ	8面

老宣教師の忘備録

東京教区司祭

ジョルジュ・ネラン

時代とともに変遷する制度や役割

過去の教会の歴史を直視すると、教会の中にいろいろなものが現われては消えてゆく、その繰り返しである。

一例として助祭は、現代では司祭を補助する役割として位置づけられている。しかし五世紀ころのローマでは、助祭は次の司教になる候補、つまり司祭を飛び越えて司教に選ばれる重要ポストだった。ところが時代とともに助祭から司祭になる者が増え、やがて数世紀後には助祭本来の役割が廃れ、司祭になるための一段階に過ぎなくなってしまった。そして第二バチカン公会議では、改めて（終身）助祭制度が再興されたのである。

福音書にはどんな時代にあっても変わらず、伝えていかなければならないキリストの姿、キリスト教の真髄が記されている。しかし教会という巨大な組織を維持するための制度や儀式、役割などは、時代とともに変遷していく必要がある。過去の決定、しきたりなどを金科玉条のように捉えて、かたくなに現状を維持することに固執していると、組織は形骸化し、腐敗が進み、衰退していくだけである。

福音書で示された宣教命令

本稿は宣教・神学論文ではない。だが、宣教の基礎を繰り返し述べなければならないと思う。そのためにマタイとヨハネの二つの福音書を引用したい。

マタイ福音書を読むと、宣教こそがキリストが私たちに求めたことだと分かる。書き出しで、「『見よ、おとめが身をもって、男の子を生む。その名は、インマヌエルと呼ばれる』。この名は、『神は我々と共におられる』という意味である。」（マタイ1章23）と、キリストが常に私たちと共にいることを強調した上で、福音書の終わりではこう締めくくっている。

「さて、十一人の弟子たちは、ガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄って来て言われた。『わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民を私の弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』（マタイ28章16～20）

この二つの文章を読むとマタイははじめから宣教を意識して福音書を記していることは明らかである。特に復活したキリストの臨在を強調するために、最初に用いた「インマヌエル」という言葉を、結びでは「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」という形で再び記している。つまり、マタイは同じ意味の二つの言葉を最初と最後にもってくることで生じる文学的な共鳴、響き合いの効果を狙ったと思われる。

宣教の担い手は、司祭でなく信徒だ。

このマタイの宣教命令は、「弟子」に向かっていることは言うまでもない。しかし、その「弟子」は十二使徒に限らない。マタイは、弟子という言葉が、「信徒一般」を指しているを読み取ってほしい、という思いを込めている。これは十章を読むと明らかである。十章は、イエスが十二人を使徒に任命している場面だが、巡回説教師の宿泊の仕方(マタイ10章11～14)、迫害への対処の仕方(マタイ10章16～23)についても語っている。そういった問題は十二使徒の時代の問題ではなく、マタイの時代(八十年頃)の信徒一般に当てはまる問題なのである。

続いて、ヨハネ福音書の一節を引用しよう。新共同訳は、17章18節を、「わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らをこの世に遣わしました」と訳している。しかし、原文の *kathos* の原因的な味を生かして、「父よ、私をこの世にお遣わしになったのだから、私も彼らをこの世に遣わします。」と訳した方がいい。

この短い一言で、なぜ信者が宣教しなければならないかという宣教の根拠となる意義、つまり、弟子の派遣は神がイエスをこの世に遣わしたと同じくらい大切な神秘であり、結局、宣教はイエスの派遣に信者が参加することだ、とヨハネは説いているのである。



初聖体クラス



9月25日

- 休みが多かったので、復習しました。
- テキスト「つみ」16・17・18
- 歌「ありがとう」を歌いました。

10月9日

- テキスト「ゆるしのひせき」19・20・21・23
- 召命の集いに出品するカードを書きました。



3～6年生クラス

9月25日

- ロザリオの意味(10月はロザリオの月なので)
- バラの花束(祈りの花束)にして、マリア様にプレゼントする。

10月9日

- 召命の集いの作品作り
- イエス様への手紙を書く。10月23日に仕上げる予定。

2011年度 第5回 典礼委員会議事録

開催日時：2011年10月5日(水)19:30 場所：信徒会館

出席者：竹森神父、柴田、松尾定五、樽角務、山本、矢田

《報告事項》

1. 第5回 黙想の家で祈り語り合う集い(10月2日)

「生きた典礼とミサ」参加人数 12名 「からしだね」に報告掲載予定

2. ロザリオの祈り 一連 10月2日(日)9:10より一ヶ月間

3. 2012年2月5日(日) 典礼聖歌研修会(深堀 純氏)

《審議事項》

1. 10月30日(日)ミサ後 大人の日曜学校

2. 11月1日(火) 諸聖人の日 ミサの時間 9:30

3. 11月は死者の月 小教区追悼ミサ 11月6日(日)

4. 11月の聖歌予定表了承

5. 11月13日(日)七五三のお祝い、赤子(樽角家、平山家)の洗礼式?

6. 12月までの司会予定表了承 次回委員会までに1月~4月の予定を作成する

灰の水曜日:2月22日 受難の主日:4月1日 復活祭:4月8日

7. クリスマスミサの時間と内容 次回委員会に詳細案提出

・12月24日(土)前夜祭(夜半のミサ) 19:30

導入部に子どものナレーションを入れる。フルート演奏の依頼をする

・12月25日(日)日中のミサ(聖書と典礼) 10:00

8. 元旦のミサ

2012年1月1日(日)神の母聖マリア 10:00 (車の祝福はミサ後)

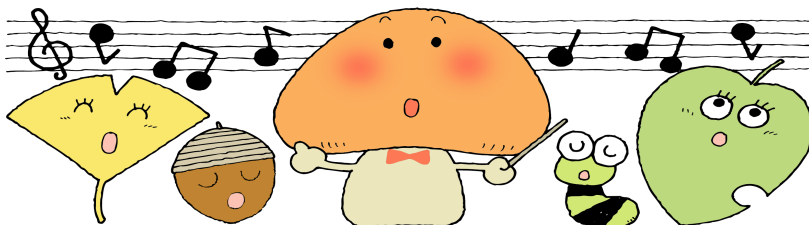
9. 「十字架の道行きの祈り」150部 印刷(10月9日ミサ後)

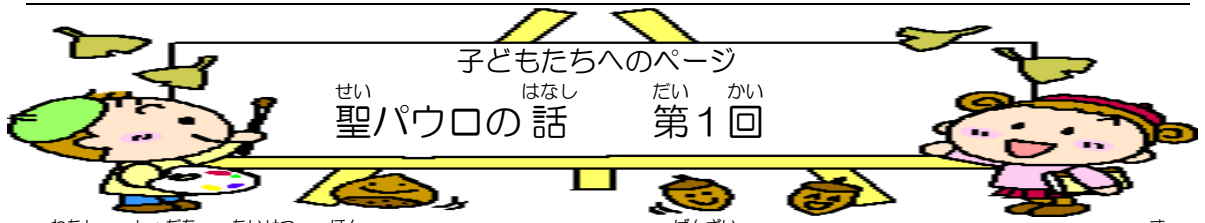
とじ合わせ協力(後日連絡)

10. 2012年秋(10月か11月)堅信式の予定 (4月から勉強を始める)

11. 次回予定

2011年 11月9日(第2水曜日)19:30 信徒会館





わたし しょだな たいせつ ほん
私の書棚に大切な本があります。

すせつ せいしよ せかい ほん だいいっかん
図説・聖書の世界という本で、第一巻が

ある みち だいさんかん だいにかん
「モーセの歩いた道」第二巻が「キリスト

ある みち だいさんかん だいにかん
の歩いた道」第三巻が「パウロの歩いた

みち ほん わたし おば も
道」です。この本は私の伯母さんが持っ

ていたもので、ある 教会の書棚にあった

のを見たとき、わたしも欲しかったのです

が、おばさんの荷物(にもつ)を整理(せいり)するときにあっ

たので譲(ゆず)ってもらいました。

わたし しんこう きょう せかい
私たちが信仰するキリスト教が世界

ひろ せい せんきょう たび
に広まったのは、聖パウロが宣教の旅を

したためともいわれます。「パウロの歩い

みち ほん さんこう せい
た道」の本を参考にしながら、聖パウロ

がどのようにしてキリストの福音(ふくいん)、良い知

らせを伝えていったのかを連載(れんさい)します。

パウロの一族(いちぞく)は、昔(むかし)からイスラエルか

ら出て行って外国(がいこく)に住(す)んでいました。自分

くに で がいこく きょうと い
の国から出て外国でユダヤ教徒(きょうと)として生

きる人(ひと)たちは、自分(じぶん)がユダヤ人(じん)ということ

は信仰(しんこう)を硬(かた)く守(まも)ることと信(しん)じていました

から、イスラエルに住(す)んでいる人(ひと)たちより

信仰(しんこう)が深(ふか)かったといわれています。

げんざい
現在(げんざい)でも、アメリカのニューヨークに住

んでいるユダヤ人(じん)が一番(いちばん)信仰(しんこう)深いとい

われています。イスラエルのテルアビブ

くうこう ひこうき く
空港(くうこう)にアメリカから飛行機(ひこうき)が来(く)ると、ユダ

じん ただ ふくそう くる ぼうし くる ふく
ヤ人(じん)の正しい服装(ふくそう)の、黒(くろ)い帽子(ぼうし)と黒(くろ)い服

をき きてひげを伸ばしたユダヤ人(じん)がたくさん

お 降り(お)ってきますが、今(いま)のイスラエルに住(す)

んでいる人(ひと)にこのような服装(ふくそう)の人(ひと)は少(すく)ない

のです。

パウロの家(いえ)は、今(いま)のトルコ共和国(きょうわこく)のキ

リキア 州(しゅう)のタルソという町(まち)にありまし

た。パウロの家族(かぞく)はテント(つく)を作(う)って売(う)

しごと 仕事を(しごと)していました。この時代(じだい)は砂漠(さばく)に住

む人(ひと)が多(おお)かったので、テント(たいせつ)は大切(たいせつ)なも

のでした。パウロ(じぶん)は自分(じぶん)の家(いえ)の仕事(しごと)も出来

ましたから、キリスト(ふくいん)の福音(ふくいん)を伝える旅(たび)

では、いろ いろ 町(まち)に行(い)って、テント(つく)を作る

しごと かね かせ せんきょう つづ
仕事(しごと)でお金(かね)を稼(かせ)ぎながら 宣教(せんきょう)を続(つづ)けま

した。

げんざい ちい まち
現在(げんざい)のタルソは小(ちい)さな町(まち)ですが、パウ

ロ(じだい)の時代(じだい)は大(おお)きな町(まち)でした。今(いま)は聖(せい)パウ

ロ(いど)の井戸(いど)とクレオパトラ(もん)の門(もん)という遺跡(いせき)

が残(のこ)っています。

第5回 黙想の家で祈り語り合う集い

報告：典礼委員 矢田公美

10月2日(日)午後2時から12名が集まりました。はじめに来住英俊神父様は「生きた典礼とミサ」をテーマに、ミサと日常生活について30分ほど話してくださいました。

※ミサ・典礼は、信者生活の頂点であり、源泉である。

※ミサを必要とする生活：わたしたちは、日常生活の中で、ミサを必要としているでしょうか。キリストの食卓に招かれて、キリストとともにキリストをいただくのがミサでの聖体拝領です。わたしたちは、飢えているでしょうか。「空腹は最良の調味料」(Hunger is the best sauce.) といいます。職場、仕事、社会生活の中でキリスト者として「愛とゆるしの実践」に生きることは容易ではありません。キリストを拝領することで魂に筋肉を付け、キリストの力をいただく。こうして、ミサは信じるものにとって源泉となります。

※日常生活から→ミサへ：わたしたちの意識を切り替える方法として、自分の一週間のスケジュール表を持参する事を勧められました。何かあったか、何をしたか／しなかったか。何を言ったか／言わなかったか。出来た事も出来なかった事もすべてを「罪」という言葉に含めて思い出してみる。こうして意識を日常からミサのモードに切り替える。心の琴線に触れる典礼には、与る側の姿勢が大事です。

お話の後、1時間ほど3つのグループに分かれて話し合いながら、各自が自分の考えた事を紙に書いて模造紙に貼りました。

《教会は何のためにあるのか》

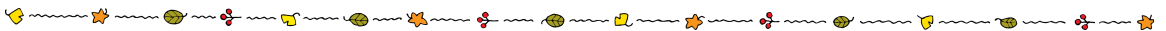
- ・ミサ(聖体)をいただく場所。 ・世界の人々の救いのためにある。
- ・世の救いのために、天国への入り口。 ・神の救いに招くためにある。
- ・イエスのミッションを継続して果たすためにある。
- ・イエスの愛を、支え合いながら生きるためにある。
- ・教会はわたしの信仰がなくならないためにある。教会は日常の自己中心の生活を反省する機会を与えてくれる。 ・キリストを伝えるためにある。
- ・自分の生き方を変えるためにある。お互いに支え合うためにある。

《わたしは何を信じているか》

- ・自分では分かっているようで何を信じているのかよく分かっていない。
- ・創造主である神、独り子であるイエズスを信じている。
- ・死が終わりでない事を信じている。 ・キリストの受難と復活を信じている。
- ・神の愛は人間の弱さにもかかわらず歴史のなかで働いている。
- ・聖霊がすべての人に働きかけておられる。

《わたしにとってイエスは》

- ・子ども時代からの憧憬のようなもの、心の真のふるさとに生きる人。
- ・私の生きる意味、すべて。困った時に答えを出してくださる。
- ・三位一体の中でイエスは、唯一具体的に言葉で教えてくださる。日常生活に活かし易い。
- ・聖書を読んでみれば非常な社会派、体制批判派。そういう意味では真似しています。
- ・教会で学問的に聞く三位一体の中のイエスキリストと私のあこがれるイエスキリストがつかないが、どうする。・二人三脚で生きてくださる方。
- ・その降誕を深く喜び、その受難に泣き、その復活を底抜けに喜び、自分の喜び、悲しみと同一になる方。



イエスのカリタス修道女会ペルー共同体

シスター イグナツィア 古川厚子さん 水巻教会を訪問！！

10月2日(日)イエスのカリタス修道女会ペルー共同体で働いておられるSr.イグナツィア古川厚子さんが水巻教会に来られました。同修道女会門司天使保育園のSr.マリア末永とSr.エマヌエラ岩崎ら3人と共に水巻教会でミサを奉げ、ミサ後ペルーの現状を報告して頂きました。

レプトン会の皆様には、バザーや他のいろいろな方法で長い期間にわたって、私たちの宣教活動に心を止めていただき、愛の献金を通して、たくさんご協力頂きましたことを感謝しています。

この1月より、私たちは、今までよりもっと貧しいビヤ・マリア・デル・トゥリウンフォ区 サン・ガブリエルへ引っ越し、3月からサン・ガブリエルのマリア・タキ保育園をスタートさせました。現在、古い聖堂を使用して6人の園児の世話をしています。地域の家庭を訪問し1日一食も満足に食べることの出来ない子どもを優先して入園させています。ここに来れば一食は確保されるという親の安心感があり仕事に行けます。

保育園園舎は、学校法人として日本大使館からの援助金をもとに、カリタスペルーが建築を請け負って、傾斜で砂地の荒地に新しく建設中です。しかし、良いことばかりではありません、建物は完成しても、園の運営資金として国からの補助金は無いうえ、法人の届けをしているため職員の数、待遇にも国の規制があり運営経費はかさみます。

貧しい共働きの家庭を支援するためにこの地域でも「子供食堂」を開くことを考えています。皆様からの支援金で賄える範囲(最も貧しい子どもを優先し、少人数になっても・・・)で運営していこうと考えております。

どうぞ、今後とも皆様のお祈りとご協力をお願い申し上げます。(8面に写真)

＜報告者 レプトン会世話人 岩本ナセ＞

11月のおしらせ

★小教区親睦会★

日 時：11月20日(日) ミサ後
 内 容：食事(カレーライス、焼き鳥)
 飲み物(ノンアルコール類)
 販売(野菜類)

100円×5=500円の前売りチケットを準備しますので、事前に購入をお願いします。

今回は、今までのようなバザーはありません。フリーマーケットがあります。個人出展が可能です。参加したい方は、1週間前に教会役員に連絡してください。ただし、売れ残った場合は各自で持ち帰ってください。

なお、各地区から準備のため2名ずつ(土曜も日曜も)の参加をお願いします。

★諸聖人の日・小教区追悼祭★

◇諸聖人の日のミサ

日 時：11月1日(火) 午前9時半より

◇小教区追悼祭

日 時：11月6日(日) 午前9時半より

死者の方の名前が書いてある色紙や紙を持ってきてください。

★11月3日 召命の集い★

今年も、日本カトリック神学院で、召命の集いが行われます。

教会の後に、参加する人の名前を書く紙がありますので、参加される人は書いてください。

なお、集合時刻等、詳しいことはミサ中のお知らせをお聞きください。

(7面より ペルーからの写真)



水巻教会の皆様への感謝



2011年8月16日 建設中の保育園園舎